

エル・ネット「オープンカレッジ」News

Vol.29

2007年11月15日発行 発行:(財)日本視聴覚教育協会 東京都港区虎ノ門1-19-5虎ノ門1丁目森ビル内 <http://www.opencol.gr.jp/>

平成19年度 エル・ネット オープンカレッジ「地域からの発信」

前回のNews Vol.28に引き続き、今年度放送の新規コンテンツに関する詳しい学習内容を紹介します。特に、「コンテンツの活用例」、「本コンテンツの学習を深めるために」は、生涯学習関連の講座を企画する担当者にとって参考になるよう、講師の方々に解説いただいています。また、コンテンツの受講者にとっても、学習の一助になる内容です。ぜひ活用ください。

●eラーニングを活用した佐賀生涯学習推進委員会

◎コンテンツ名：地域の環境—森・川・海を繋ぐ環境と暮らし—その保全・再生を目指して「川の環境」

講師：田中 正和（佐賀県中部保健福祉事務所）

放送日：11月22日（木）10：00～10：27（再放送11月26日（月）10：00～10：27）

講義レベル：中級：専門的内容 対象者：成人～高齢者

◆コンテンツのねらい：

森から海につなぐ川の形成、特徴、形状について分かり易く解説し、佐賀平野を流れる川特有の現象について言及する。また、私たちの身近に存在する川の環境を考え、川の汚染の一番の原因であるといわれる生活排水の問題を実生活で解決すべく取り組んでいる人にも登場してもらい、川を大切に、川とともに生活し、海につなげていくことを学ぶ。

◆コンテンツの活用例：

学校・大学で、環境学習の教材として活用する。

川の環境保全に取り組むNPO等の研修機会に活用し、川の水質浄化への取り組みの実践につなげる。

◆本コンテンツの学習を深めるために：

『みんなでつくる川の環境目標 やってみよう!環境教育』(日本水環境学会水環境教育研究委員会(WEE21)編集委員会編著、環境コミュニケーションズ、2004)を参考に、川の水質調査など環境を調査する方法を学ぶ。

◎コンテンツ名：地域の環境—森・川・海を繋ぐ環境と暮らし—その保全・再生を目指して「海の環境」

講師：五十嵐 勉（佐賀大学農学部准教授）、中村 安弘（湿地学習コーディネーター）

放送日：11月29日（木）10：00～10：36（再放送12月3日（月）10：00～10：36）

講義レベル：中級：専門的内容 対象者：成人～高齢者

◆コンテンツのねらい：

「豊穡の海」有明海が、近年の環境の変化によって、その豊かな生産性が失われつつある。干潟の二枚貝の激減や海苔養殖の色落ち被害など、有明海の環境は深刻な状況になっている。その有明海の再生運動に取り組む人々に焦点をあてる。干潟体験・伝統的漁撈体験、渡り鳥の観察会などの環境学習に取り組む人々、森・川・海を繋ぐ環境学習やエコツアーの実践活動をする人々等を紹介し、豊かな海を再生し、後世に引き継いでいくことの重要性を学ぶ。

◆コンテンツの活用例：

干潟体験に特徴的な、環境教育の実践的な事例として、学校・大学での環境学習の教材とする。

環境保全に取り組む環境カウンセラー等の実践家を育成するために、養成講座等の学習機会に教材として用いる。

◆本コンテンツの学習を深めるために：

2007年10月に環境省から出された、第7回自然環境保全基礎調査浅海域生態系調査（干潟調査）の結果を参照しながら、それぞれの近隣の干潟環境について理解を深める。

参考「生物多様性情報システム」URL：<http://www.biodic.go.jp/J-IBIS.html>

◎コンテンツ名：地域の環境―森・川・海を繋ぐ環境と暮らし―その保全・再生を目指して「佐賀環境フォーラム」

講師：宮島 徹（佐賀大学理工学部教授）、田中 稔（佐賀市環境下水道部環境課課長）
放送日：12月6日（木）10：00～10：42（再放送12月10日（月）10：00～10：42）
講義レベル：中級：専門的内容 対象者：成人～高齢者

◆コンテンツのねらい：

佐賀環境フォーラムは、学生と市民が環境問題についてともに学び考える、全国でも例をみないユニークな試みである。フォーラムのさまざまな特色を紹介するとともに、環境ビジネス企業に就職したOBにフォーラムがどのように有効だったかを語ってもらうなど、これまでにない環境教育のかたちを、関係者のインタビューを交えながら映像構成し、環境問題に対する正しい知見を得るための取り組み方を学ぶ。

◆コンテンツの活用例：

環境問題に関心のある市民に向けて、環境問題についての正しい知見を得るためにどのように専門家と関わり、地域の学術研究成果を利用していくかを学ぶ教材とする。

大学関係者は大学の地域連携事業の事例として視聴し、学生と市民と大学の理想的な分担・協力体制、また継続的な取り組みの持ち方について学ぶ。

学生は、環境問題について、学生の立場から学びを社会に活かし、展開していく方法の事例を学ぶ。

◆本コンテンツの学習を深めるために：

受講者の地域にある大学や国立高等専門学校、研究所等の専門研究・教育機関を見直し、市民の立場からそれらの持つ能力や成果を知るための機会を設ける。

参考文献：「季刊・環境研究134号 特集：環境保全活動・環境教育推進法と全員参加の環境時代、パートナーシップ環境事業の可能性-佐賀大学と佐賀市、地域とのパートナーシップの取り組みについて」宮島徹著、日立環境財団、2004、p.174-p179



●中越エコ・セーフティ学習協議会

◎コンテンツ名：防災と自然―安全と環境を守るための知恵と技―
「経験から生まれた生活関連における防災の知恵や技」

講師：中村 和男（長岡技術科学大学）
放送日：11月28日（水）10：00～10：50（再放送12月7日（金）10：00～10：50）
講義レベル：教養課程 対象者：学生、一般市民

◆コンテンツのねらい：

阪神淡路大震災を経て、中越地震の被災経験から明らかになった災害時の生活関連ニーズの全体像を、調査データを踏まえて概観するとともに、それらを踏まえて生まれた知恵や技術、さらには、防災・救災製品やシステムを紹介しながら、今後の防災産業の創出に向けた取り組み方について考える。

◆コンテンツの活用例：

市民講座等における利用に供する。

自治会や町内会単位では、災害への備えや対応を考えるきっかけとして活用する。

防災・救災のための製品・システム開発を目指す企業等の商品企画者・技術者の学習用に提供する。

◆本コンテンツの学習を深めるために：

自然災害の本質を学び、自然の振る舞いに謙虚に対処し、環境と共生しながら、安全と暮らしを護るための知恵を育みたい。

生命そして衣食住の確保という基本のみならず、災害という危急事態に直面した人間の心身のストレスに配慮した製品・システム作りを考えたい。



図1 数週間で避難所内にこどもの遊戯室



図2 長期の避難所生活には間仕切りが役立った

◎コンテンツ名：防災と自然―安全と環境を守るための知恵と技―「災害時でもビジネスを止めない」

講師：伊吹 勇亮（長岡大学）、内藤 敏樹（長岡大学）、松本 和明（長岡大学）

放送日：12月5日（水）10:00～10:50（再放送12月11日（火）10:00～10:50）

講義レベル：中級：専門的内容 対象者：学生、一般市民

◆コンテンツのねらい：

社会からの要請により、もしくは当該企業の競争状況の悪化を防ぐために、企業の経済活動は災害時においても継続される必要がある。本講では「災害時でもビジネスを止めない」ための仕組みとして注目されているBCP（事業継続計画）について概観し、その実践方法について学習する。

◆コンテンツの活用例：

一般市民にとって、企業構成員としての一般市民が災害発生時にどのような行動をとることが求められているかについて理解を深めるべく、活用する。

これから社会に出て行く学生にとって、社会に出た後に必要とされる能力についてイメージを具体化させ、今からどのような準備が必要となるかについて理解を深めるべく、活用する。

企業担当者にとって、BCPの概要とその重要性を再認識し、自社内で実践できるように準備を進める際の指針とするべく、活用する。

◆本コンテンツの学習を深めるために：

平常時における企業と社会環境との関係について、再度考えを巡らせることが重要となる。

具体例をもってBCPを理解する。

◎コンテンツ名：防災と自然―安全と環境を守るための知恵と技―「防災力の高いまちづくり・建物づくり」

講師：中出 文平・樋口 秀（長岡技術科学大学）

放送日：12月17日（月）10:00～10:50（再放送12月21日（金）10:00～10:50）

講義レベル：初級：入門 対象者：学生、一般市民

◆コンテンツのねらい：

人口や建物の密度が高くなく、コミュニティ意識の強い地方都市圏で、災害に強い都市構造や建物、ならびに発災後に地域内で相互扶助できる避難システム、避難場所の整備をいかに構築するかを、中越大震災の経験を踏まえて講義する。

◆コンテンツの活用例：

市民講座等では、建物の耐震性や地域の防災力についての理解を深めるために活用する。

自治会や町内会単位では、災害発生後を想定した対応方針を検討する際のきっかけとして活用する。

行政組織による住民への説明に際して、建物の耐震性や地域の防災力を高める解説資料として活用する。

コンテンツの学習時には、それぞれの建物や地域の課題を検討するきっかけを与える。

◆本コンテンツの学習を深めるために：

自宅、職場で被災した場合の避難場所はどこか、避難路ならびに避難場所の安全性はどうか、事前に把握しておく。

過去の災害で被害を受けた市街地や建物の特徴を紹介し、事前の対応策を検討する。



災害に強いまちづくり・建物づくり（神戸新長田の例）

◆本番組の講座は、各コンソーシアムからインターネットでも配信されます。配信アドレスについては、メールマガジンやスケジュール表でお知らせいたしますので、ぜひご覧下さい。

◆メールマガジンを毎週水曜日に配信しています。講師・講義内容・スケジュールや最新情報をお届けします。配信を希望される方は [www.opencol.gr.jp] からご登録ください。

◆放送日及び講座内容は変更されることがあります。ご了承ください。また、天候により番組を見ることができない場合があります。

◆講座内容、テキスト等詳細については、[www.opencol.gr.jp] でご確認ください。

◆エル・ネットは、平成20年4月以降、インターネットへ移行します。本コンテンツについても新しいエル・ネットにおいて来年4月から視聴できる予定です。

◆問い合わせ 文部科学省生涯学習政策局参事官（学習情報政策担当）付
電話：03-5253-4111（内線3263・2941）

◎コンテンツ名：防災と自然—安全と環境を守るための知恵と技—「成熟社会における災害からの復興を考える」

講師：澤田 雅浩(長岡造形大学)、上村 靖司(長岡技術科学大学)、稲垣 文彦(中越復興市民会議)
放送日：平成20年1月8日(火) 10:00~10:50(再放送 平成20年1月10日(木) 10:00~10:50)
講義レベル：中級：専門的内容 対象者：学生、一般市民

◆コンテンツのねらい：

過疎高齢化が急速に進展する中山間地域に大打撃を与えた新潟県中越地震から3年が経過し、被災をバネにした自発的な復興への取り組みが各地で活発化している。災害がなくとも衰退していた地域における復興をどのように考え、何に取り組んだらよいのか。そもそも「復興する」とは何を目指すことなのか。社会が十分に成熟した現代の復興について、「市民のチカラ」の視点からもう一度問い直す。

◆コンテンツの活用例：

市民講座等では、長く続く復興の過程を意識した災害救援・復旧を考えるきっかけとして活用する。

自治会や町内会単位では、災害復興が災害前の地域づくりに強く影響されていることを学んでもらう。

行政組織による住民への説明に際して、復旧後の生活再建の意味を説明する資料とする。

コンテンツの学習時には、地域の具体的な被害やその後の復興に向けた課題を検討するように促す。

◆本コンテンツの学習を深めるために：

阪神・淡路大震災や新潟県中越地震からの復興事例を紹介する。

復興に向けた取り組みは時間を要するものであることを、事例を紹介することで理解させる。



図1 旧山古志村榎木集落住民を対象とした再建計画づくりワークショップの様子



図2 小千谷市塩谷地区における片付けボランティア作業後の住民との交流の様子

◎コンテンツ名：防災と自然—安全と環境を守るための知恵と技—「恵みと災い—自然と折り合う暮らし—」

講師：永野 昌博(十日町市立里山科学館キョロコ)
放送日：平成20年1月15日(火) 10:00~10:50(再放送 平成20年1月30日(水) 10:00~10:50)
講義レベル：初級：入門 対象者：学生、一般市民

◆コンテンツのねらい：

農村生態系 - 里山 - のもつ災害防止、生物生息空間、環境浄化機能などの多面的機能に理解を深めてもらう。更に、その維持、向上を地域全体で進めていくための環境モニタリング法、環境再生法について言及し、「地域資源」や「地域の知」を活かした地域づくりの進め方について学ぶ。

◆コンテンツの活用例：

市民講座等では、里山の多面的機能とその保全、再生、活用への理解増進へ活用してもらう。

行政組織に対しては、地域資源を活かした地域づくりの進め方の資料として活用してもらう。

NPOなどの団体に対しては、住民参加による環境モニタリングなどの基礎資料として活用してもらう。

学校等においては環境教育、地域学習など総合学習の教材として活用してもらう。

◆本コンテンツの学習を深めるために：

博物館や市民団体が開催する環境モニタリング調査や自然観察会への参加を呼びかける。

学校の総合学習などにおいて本コンテンツ学習と共に自然環境調査などの実際の活動の講習会も開く。

